

イマヌエル教報

2019.

8

1947年7月1日第三種郵便物認可 2019年8月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.877

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

ただ尊きは育てたもう神なり

ブロックアドバイザー 川嶋直行



「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」（第一コリント三章6、7節）

*

文語訳では、「我は植え、アポロは水灌げり。されど育てたるは神なり。……ただ尊きは育てたもう神なり。」と訳されています。今年の三月、教会の猫の額ほどの芝生広場に、隣接地を与えて下さった主の御業を記念して、ぶどうの木を植えました。初めて間近で見たぶどうの木は、枯れ木のようでした。4月になっても、何の変化もなく本当に生きているのかと心配になりました。しかし、やがて小さな芽が出、今では人間の背丈を超えるほどに成長しています。水やりと適度な剪定をしながら、秋の実りを楽しみにしています。ぶどうの木を見ながら「成長させてくださる神」を思いました。イエス様は神の国を、地が人手によらず実をならせることに例えておられます。無論、これは人の働きを否定するものではありません。コリント教会は、パウロが伝道し、アポロが信徒教育を行い、プリスキラやアキラの愛の労苦により建て上げられました。人の働きと神の働き、両者が必要であることは言うまでもありません。しかし、それでも、「ただ尊きは育てたもう神なり。」とは、否定しようがない真理であると思うのです。

子育て中の親ごさんたちにとって、子どもたちの「成長」は大きな関心事であると思います。キリスト者に

とって「霊的成長」や「教会成長」は大事なトピックです。どうしたら、人は成長し教会は成長するのでしょいか。いくら親や牧師が気を揉み、叱咤激励しても、それで成長することはないように思います。逆に、ストレスで共倒れになってしまいかもしれません。たとえば、強制されて目標を達成したとしても、その成長は火の試験に耐え得るものか真価が問われます。

「教育」とは、「その人が持っている潜在能力を引き出すこと」と言われます。人の霊的成長は、あくまでも自主的なものでなければ本物にはならないようです。そして、この自主的な力を引き出して下さる方は、父なる神、主イエス・キリスト、御霊の三位一体の神以外におられません。親や教師、牧師は、祈りと言葉の奉仕により、彼らの人格のうちにキリストが形造られるまで、忍耐をもって見守って行きます。「成長させてくださるのは神」であり、親、教師、牧師は、あくまでもサポートする立場です。

残念なことに、コリントの教会には「パウロにつく」とか「アポロにつく」とか、人に依存する信者たちがいました。パウロは彼らを「肉に属する人」と呼んでいます。頭であるキリストに結びつこうとしないので、霊的成長はそこでストップしてしまいました。人ではなく、信仰によって神に繋がるサポートをするのが親、教師、牧師の役割です。もっと、成長させてくださる神に信頼し、ゆだね、成長を楽しみにして待つ方が、良い結果を生むのではないかと、庭のぶどうの木に水やりをしながら思った次第です。

目次

- ただ尊きは育てたもう神なり……川嶋直行……1
- 西日本女性牧師研修会、JEF山形大会報告……2
- 教団運営委員会、沼津教会、プリンセル師追憶……3
- 海外トピックス、国内教会局、ペテルハウス……4
- ユースミッション、本の紹介、eラーニング……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

女性牧師部研修会報告

西地区での牧師夫人研修会

説教を語る時に
主の助けと恵みが

女性牧師部長 黛 睦子

「これらのことに心を碎き、ひたすら励みなさい。……自分自身と、あなたの教えを聞く人たちとを、救うことになるのです。」

(第一テモテ四・15、16)

昨秋、説教のご用に立つ複数の牧師夫人から説教を学びたいとの声が届き、国内局長・教育局長の導きで「牧師夫人研修会」が実施される事となりました。第一回は西の地区で小規模に行われました。女性牧師部に協力要請が届き、全部員が加わりました。

全体の企画は生涯学習課の諸先生によってなされ、送迎を田辺寿雄師や岩上頼子師が担って下さり、研修の全体は野田容子師が担当されました。

◆日程：7月1日(月)、2日(火)
◆会場：神戸「母の家ベテル」

◆テーマ：「説教」

◆参加者：近畿、中国、四国の諸先生、女性牧師部員(15名)

◆プログラム

【二日目】午後5時「母の家」オ

リエンテーション。開会の集い(野田師)。(研修1)釣俊栄師(司会・寺村師)。

【二日目】朝の静まりの時。

〈研修2〉梅田登志枝師(司会・古川師)。分かち合い。閉会の集い(黛)。昼食後解散

釣師はご自身が支えられたIIコリント一二・9を開き、説教を中心とした今日までの奉仕の現実的な歩み、信仰の戦いを証してくださいました。梅田師はテキストを用いて、説教に取り組む実際の

具体的な学びをしてくださいました。お二人のご用から、近く寄り添い助けられる主の事実や今後のための示唆や励ましを頂きました。

研修会全体は主のご臨在のもと有益な学び、心開かれた交わりなど恵み溢れた幸いな時でした。来年は6月に合同リトリートがあります。ぜひ多くの先生方に参加して頂きたいと祈っております。国内局のご支援に感謝致します。



日本福音連盟(JEF)山形大会

かつての殉教地で
御霊の実を結ぶ

JEF総会・聖会を開催

神戸教会 岩上祝仁

日本福音連盟(JEF)はきよめを標榜する教会・団体が集まり連携をとるために1951年に創設され、イムマヌエルは2013年から加入して、その交わりの中にある。JEFでは毎年6月に総会と聖会を合わせた大会を各地区持ち回りで行っており、今年はウェスレアン・ホーリネス山形南部教会を会場にして「聖霊が結ぶ御霊の実」をテーマに開催された。

トヨタ自動車倉庫を改装した山形南部教会の真新しい礼拝堂で主の恵みに満たされた聖会が二晩続けて持たれた。

16日(日)は田中敬康牧師(イムマヌエル引退牧師)がみことばをデイボーションナルに読みつつ、主の愛を受けて、主の愛に生きてゆくことが私たちの信仰生涯の鍵であること。意識的に私たちが全てを捧げて主と共に歩んでゆくと、私たちのうち聖霊が実を結んでくださることが語られた。

二日目の夜は釣俊栄先生による

きよめの証しが語られ、普段の生活の中でこそきよめの恵みの真価が問われることが語られた。太田正信先生(日本福音教会連合・勝山栄光教会)により「御霊の声に従順に聞き従う」ことの大切さがご自身の体験に基づき語られた。特に御霊の声に謙虚に、そして悔い改めつつ聞き従っているかと鋭く語られた。

二日目の総会では、長年、日本福音連盟の理事長としてご奉仕された太田先生が勇退され、小菅剛先生(日本イエス・キリスト教団)がJEF新理事長として選出され、責任を担われることになった。二日目午後は、川上直哉先生(日本基督教団石巻教会牧師)によって東北、特に山形におけるキリシタンの歴史が紐解かれた。江戸時代初期、東北ではキリシタンが製鉄産業の担い手となつてキリシタン集落を形成していた。そこでは宣教師や司祭は年に数回、ミサの

ために来るだけであり、信徒のリーダーが建てられて、学びを行い、宣教活動や教会活動を信徒中心に行われていたことが紹介された。徳川幕府がキリスト教を禁教にし、最終的に米沢のキリシタンも迫害により殉教に終わる歴史が語られた。質疑応答では現代日本における福音宣教の困難の原因にまで話題が広がった。

三日目の午前は、殉教地巡りのツアーがあり、セミナーで学んだ殉教の地を訪問した。山形から足を延ばして、米沢を訪問。米沢博物館でキリシタンの歴史資料を見学。近くにある北山原殉教地を訪れた。1692年に主イエスの十字架の道を歩んだ53名の殉教者の信仰を偲びつつ、祈りを捧げ、恵みのひとときを過ごして今回の山形大会を終えた。山形地区のきよめ派の諸教会の温かなおもてなしを受けて、恵みと主の愛に溢れる大会であった。



これからの教団運営

共に考える時を

広報 大兼久芳規



今年度最初の教団運営委員会が、7月8、9日にベテルハウスで開催されました。今回は明年の「年会」「教団の組織改革」「総会期の期間」を中心に話し合われました。まず内山代表より、「戦利品」を、三〇章21、25節から「戦利品」を、戦いに参加した者にも、そうでない者にも平等に分けられたことが語られました。その後には、目の前の課題に対してダビデの口からは「主」という呼び掛けが多く出て、不平等を訴える人々の口からは「私たち」という言葉が多い。神に仕える者の言葉と心に、主が絶えず中心であるときに、真の平等がもたらされると語られました。初めにベテルハウス改修への献金（1800万円）を支えてくださった神学院後援会への感謝状が代表から手渡されました。

年会検討委員会

来年の年会では、現在の信仰継承の大切さが課題となっている群れとして、教団の中高生プログラムを知り、今後も支えていただ

ために、青年向け聖会や年会に並行して中高生プログラム、CSを行うことを準備中です。今後の準備と、青年への伝道が進められま

すようお願いください。

組織改革検討小委員会

現在、牧師の高齢化と減少は、大きな課題です。各教会への伝道者の派遣の厳しさに加え、将来教団の運営委員選出にも、限られた人数からの選出に難しさが出てくる

ことが考えられます。その対策として、現在14名の運営委員のスリム化の必要が出ています。2案

ほどが検討されていますが、9月の全国主事会、秋の教区会で時間を取って、BA制度やこれらの課題について一緒に考えていただければ幸いです。

総会期

いまは代表選出後3年の任期で総会期が営まれています。3年

間では大切なことを進めていくには短く、任期を4年にし、再選はないという形にしてはという案が出されています。また信徒代議員による信徒教団運営委員選出にも、信徒相互の交流の必要を覚えます。今後話し合いを重ねていきます。

信徒局の今後

信徒局では、従来の全国信徒大会にかえて、全成年信徒を対象にしたフォーラム形式の集会を持ちたく願っています。それに向けて今年度は、信徒の方々がどのような関心や必要感を持ってもらえるのか、アンケートでくみ取らせて

国内教会局からのご報告

沼津教会の合流について

インマヌエル沼津教会は 沼津シオン・キリスト教会に 合流して新出発します

国内教会局長 岩上祝仁



全国の教会の背後の篤いお祈りを感じます。6月7日すべての手続きを終え、インマヌエル沼津キリスト教会が沼津シオン・キリスト教会に合流しました。開拓以来、インマヌエル沼津教会で心血を注いでこられた先生方や信徒の皆様への働きを覚え、ますます、寂しさや喪失感がないわけではあり

ません。でも主の恵みと導きにより、この合流合併に導かれたことを覚え、今後もお祈りいただくためにこの記事を書きました。

また沼津シオン・キリスト教会では6月9日、インマヌエル教会からの転会式が行われました。集まった皆さんが主の恵みに支えられ新しい教会生活をスタートしました。二つの教会が一つになるのは簡単なようで簡単ではありません。互いに違いを認め合い、違いを笑顔で受け入れ合う、そんな再出発の様子を荻野先生から伺っています。いまある沼津教会の納骨堂は荊山教会へ移譲し、さらに教会堂はインマヌエルチャペルとしての改装工事を終え、新しい宣教の拠点として用いられます。インマヌエル沼津教会は終わったのではなく、主の恵みによる新しい信仰のスタートを切ったとご理解ください。引き続きお祈りに覚えていただければ感謝です。



沖繩のマザーテレサと 呼ばれたプリンセル先生

糸満教会 大山祥子

プリンセル先生は、貧しい人、病人、社会的弱者の立場にある方々に惜しみなく愛の手を差し伸べる方でした。病院、老人ホーム、身障者の施設訪問を通して多くの方々に福音を伝え、救いに導かれました。当時はまだハンセン病が恐れられていた時代に沖縄北部にある施設を訪問し、出された茶菓を快く召し上がられました。

プリンセル先生召天直後の礼拝の献金かごに一枚のカードが入っていました。「あなたのやさしさにありがとう」と印刷された文字の下に「プリンセル先生へ」〇〇

よりと書かれてありました。

還暦を過ぎた彼がプリンセル先生と出会ったのは彼が10代後半の青年の頃でした。極度の恥ずかしがり屋で人の顔を見ることも話すことも苦手な彼にプリンセル先生は聖句を暗誦させ、祈ることを教え、人としての社会生活の訓練もされました。平仮名しか読み書きのできない彼が、召天されたプリンセル先生へ「あなたのやさしさにありがとう」のカードにこめられた彼の思いに感激の涙が止まりませんでした。マタイ二五章40節

国内教会局から

教会建設の務めに

日常と非日常

ようやく梅雨が明け、夏の歩みに入りました。教会では様々とプログラムが計画されているでしょうか。若い方々のためにもYSやとにキャンが開催されます。いつもと違う顔ぶれやプログラム、普段は見えない景色。



そこで主と出合い、語りかけを頂くことができたならば、かけがえのない経験となりましょう。福音書に見る主イエスと弟子たちの関わりもそうだったようです。大きな祭があると、彼らは主イエスに導かれ、共にエルサレムに赴きます。その道中で地元では出会わない人々と触れ合い、いつもと異なる角度から論され、

そしてまた驚くようなみわざを目の当たりにして、彼らも日常に戻っていききました。誰よりも主イエスが私たちを非日常に連れ出してくださり、そこで語りたく願っておられるのではないのでしょうか。「あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。」(ルカ二二・15)

(葛田崇志)

■米國務省「信教の自由」報告書
米國務省は6月21日、世界各国の「信教の自由」の状況をまとめた2018年版の年次報告書を発表。今年の報告書は、イスラム教徒主体の少数民族ウイグル族らが住む中国の「新疆ウイグル自治区」を特に取り上げ、信教の自由の侵害が悪化していると懸念を表明した。報告書によると、2017年4月以降、中国政府は推計で少なくとも80万人、最大で200万人以上のウイグル族などイスラム教徒を拘束。自治区の収容所では拷問が横行し、死者が出ているとの報告もあると指摘。また、中国国内のキリスト教徒に対する抑圧も激しさを増し、中国当局による地下教会の閉鎖や聖書の焚書、信者に対する信仰放棄の強要などが行われているとした。

報告書は、北朝鮮に関し、宗教的理由も含め投獄されている政治犯が8万~12万人にのぼり、遠隔地の政治収容所で過酷な処遇を受けていると指摘した。



海外トピックス

■植物状態の仏男性、生命維持装置停止から9日目に死去
交通事故で脳に重度の損傷を負いフランス北東部ランスの病

り、医師から回復の見込みはないと診断された。植物状態となった同氏の延命措置継続をめぐるのは家族はもとより仏国民の意見も二分。法廷後見人でもあるランペール氏夫人は、書面には残されていないものの同氏が事故前、人工的に生かされるのは嫌だとはっきり意思表示していたと主張。これに対し、熱心なカトリック教徒である両親は延命治療を望み、法的措置によってこれまで5回に渡って医師による生命維持装置取り外しを差し止めてきた。カトリック教会の教皇フランシスコも今年5月ツイッターでランペール氏に言及。命は神からの贈り物であり、自然な死を迎えるまで守り抜くことが必要だと訴えていた。数年におよぶ法廷闘争の結果、フランス最高裁「破棄院」がランペール氏の生命維持装置停止を認める判決を下し、ランスの病院の医師たちは7月2日から装置の取り外しに着手していた。

(平瀬聡樹)

ベテルハウスのご利用案内

キャンプ、研修会など
ぜひご利用ください

神学院学務課 馬場満子



ベテルハウスが研修棟として使用されるようになり早1年が経ちます。その間、試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ改善して今日に至っています。利用状況としては、昨年のYSで先ず教団の青年達にご利用いただいたのを皮切りに、教団運営委員会を始めとする主に先生方の会議・研修、東京FMやCOGの青年たち、KGKの集会や交わり等、イムヌエル以外の青年たちに大変好評で、多くご利用頂いております。今年からは専任の管理者も与えられ、施設の管理が充実してきました。

かつての旧女子寮へは食堂棟の横から階段を下りるルートでしたが、神学院の教育環境を守るため

ベテルハウスが研修棟として使用されるようになり早1年が経ちます。その間、試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ改善して今日に至っています。利用状況としては、昨年のYSで先ず教団の青年達にご利用いただいたのを皮切りに、教団運営委員会を始めとする主に先生方の会議・研修、東京FMやCOGの青年たち、KGKの集会や交わり等、イムヌエル以外の青年たちに大変好評で、多くご利用頂いております。今年からは専任の管理者も与えられ、施設の管理が充実してきました。

お問い合はせは神学院学務課・馬場まで。メールアドレスは、seminary@b.tc.jpです。



226-0024 神学院学務課 馬場満子

電話 045-931-3546 メール: seminary@b.tc.jp

ユースミッションご案内

今回は小松教会で奉仕と
信仰のチャレンジを

越谷教会 川村和臣

「なんと美しいことか。良い知らせを伝える人たちの足は」

(ローマ一〇・15)

過日、教報等でご案内させていただきましたが、今年は小松教会でユースミッション(YM)を行います。YMとしては4回目です。YMは青年たちの願いから始められた企画です。志のある青年たちが教会などを訪問、奉仕し、教会建設の労に少しでも携わせていただくものです。また参加する青年たちにとって信仰のチャレンジと訓練、お互いの交わりを深めることを目的としています。

これまでは、今治教会、下関教会、また東北聖会にて奉仕をさせていただきました。今治や下関では教会キャンプのお手伝い、また東北聖会でもCS部会での奉仕をさせていただきました。いずれも青年たちならではの行動力とアイデアで子どもたちもとても喜んでくれました。教会員の方々もそのような青年たちの姿に励まされた

とも伺っています。また、奉仕者同士の交わりも幸いで銭湯や奉仕の後「ちよこつと観光」に行ったことなど楽しい思い出です。

今回の小松教会での具体的な活動は24日(土)に現地集合。打ち合わせや準備を行います。25日(日)の礼拝では証しや讃美の奉仕、午後は教会学校のお手伝い(ゲームや遊び)、となります。募集対象は高校生から社会人で4〜6名程度です。今回は葛田聡毅先生が引率してくださいます。ぜひ青年たちをお送りください。個々の教会からの参加だけでなく、近隣の教会との合同、教区単位での参加も歓迎します。

なお、YMは原則ボランティア(手弁当)となります。交通、食事、宿泊等はすべて自分たちでまかない、教会の負担にならないようにします。費用も各自ですが、青年部より補助もあります。青年の働きのためにお願いします。



伝道のために

バイブルメッセージ集
福音を伝えよう!「世の光」「ライフライン」の
メッセンジャーによる説教集

暑い夏を超えると、いよいよ伝道のシーズンです。それぞれの教会で秋の特別集会を計画してられることと思います。そんなとき、求道者の方々への贈呈用の本としてお勧めなのが、ラジオ牧師たちの説教集です。「世の光」や「ライフライン」でおなじみの村上宣道先生や羽鳥頼和先生、若手では大嶋重徳先生や山本陽一郎先生など、年代もさまざま。見開き2ページのショート・メッセージがギッシリ詰まっています。

求道者の方々だけでなく、信徒の皆さんが読んでもとても恵まれます。今回は『人生を分ける日』とちよつと思わせぶりの題がついています。何よりうれしいのが300円という価格。いのちのことは社から出ています。ぜひ伝道にご活用ください。(矢木良雄)

eラーニングご案内

新インターネット聖書セミナー①
マルコの福音書を読む

講師：藤本 満先生

eラーニング担当 大津博子

・初心者からベテランまで、信徒の方々から教師まで、新鮮な思いで聖書に取り組むセミナーです。

・動画付き聖書注解書のようなイメージです。

・日本語の読解力だけでマルコの福音書全体や流れを把握し、そこから独特なメッセージ、福音の真髄を読み取っていきます。

9月2日から16日

・聖書読解法の5つの法則に馴染むために、まず12の動画を見ていただきます(2200円)。1つの動画は説教のようになっていきます。わかりやすく恵み豊かです。

9月17日から11月11日

・いよいよ8週間の「聖書セミナーマルコの福音書」が始まります(7800円)。

・聖書読解法の5つの法則を用いて講師が読み、またご自身が読みます。

・1週間に2章のペースで、新しい動画とテキスト資料がアップされます。

・質問は、担当者にメールで送っ

てください。匿名で講師に届けられ回答がコースにアップされます。

・動画や資料はセミナー終了後もいつでも何度でも視聴できます。

・履修にあたって(詳しくはチラシをご覧ください)

・聖書、インターネットに接続できる端末(PC、スマートフォンやタブレット)

・講座は、「note」というインターネットサービスにアップされます。

・受講生は各自ご自分で「note」にアクセスして購読料を納めます(支払にはクレジットカードと携帯電話のキャリア決済、プリペイドカードのVプリカ等が使用できます)。別途通信費がかかります。

以前eラーニングで「聖書読解法」と「マルコの福音書」を学びましたが、さらに充実した動画と資料が提供されます。ご要望の多かった「講座終了後の動画視聴や資料閲覧」も可能になりました。



巻頭言

キリストが形作られるまで

世界宣教局
葛田敬子

広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「あらゆる恵みに満ちた神、神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で回復させ、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」(1ペテロ五章10節)
今月末には、初めてのザンビア

宣教訪問団を送り出します。宣教師の御存在自体からも、きつと色々なことを気づき、見聞きし、経験してこられることでしょう。
高校生の時に、教会の先生に薦められた本がありました。中国の奥地に行かれた宣教師の自伝です。一冊目は、信仰から離れた筆者が生ける主との交わりに導かれ、宣教師として出発するまでの青年期の証です。すばらしい祈りの答！という恵みを経験したすぐ後に、扉がガシャンと閉められるような道を通りながら、主の真実を味わってゆかれる証は、信仰の幼い私には大きな刺激でした。
筆者が聖書学校を卒業し、宣教師候補として宣教団体の審査を受けた時のことです。結果は、条件

付きの受け入れでした。審査の過程で、筆者のことを「傲慢で、不従順で、宣教師でトラブルを起こす可能性がある」と評した人があったからです。筆者は憤慨し、当惑し、心穏やかでない状態を通ります。いろいろなことがありますが、最終的に、弁解や詮索をせず、一切を主の御手に委ね、謙って自分と向き合いながら準備を続ける決断をします。その後、主は恵み豊かな方法でそれを乗り越えさせてくださるのですが、後年宣教師地での様々な経験を経て、あの時のごとがどんなに貴重で必要な準備であったかと振り返ることになったと証しておられました。

ある聖徒が「すべてのキリスト者に『神は工事中』という標識が貼られてしかるべき」と表現しておられますが、救いに与った神の子たちひとりひとりの内側に「キリストが形造られるまで」神さまは働き続けてくださいます。牧師であれ、宣教師であれ、キリスト者はすべて完成に向かう「途上」で工事中であることを思いま。何事かが成し遂げられるに勝り、大きな数字が結果となるに勝り、主はひとりひとりの神の子どもたちの成長と完成をこそ願っておられることを思うのです。背中を向けて真反対に歩き出した預言者ヨナを惜しまれた主は、様々の戦い、困難、試練、涙、また喜びや勝利を通して、私たちを練り愛をもって造り続けて下さる方です。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2019年7月2日

6月のザンビアは乾燥と寒さが増す季節です。今までブランケット1枚で過ごしていましたが、寒さで眠れず流石にもう1枚出しました。寒い季節ですが6月に入り畑からの恵みにあずかっています。今、家の掃除を手伝ってもらっている方がとても上手に畑をしてくださる方で、人参、白菜、キュウリなどの野菜をオーガニックでいただくことができています。
クリニックは子ども健康週間や、その他エイズケアのキャンペーンがあり、スタッフ不足の中、やや忙しい月となりました。産科病棟では緊急搬送や吸引分娩のケースがありました。母兄たちは守られ感謝でした。
クリニックの環境衛生を担当している方が急遽転勤となりました。この方は比較的新しいスタッフでしたが、家族の都合上、来て間もなくではありませんが転勤となりました。感謝なことに何日かしてすぐに、彼のいたポジションに新

しい方が与えられました。初め聞いた情報によると、この方は首都ルサカ(ペンバ族・ニヤンジャ族)から来るということで、トンガの田舎の地でうまくはまっていけるかと心配しましたが、とてもフランクな方で初日からスタッフの中に溶け込んでいました。もともと出身は私たちがいる南部(トンガ族)の方で言葉の壁もなく彼のホームグラウンドに戻ってきたと喜んでいました。また街とは違い多種多様に業務をこなしていくことが求められていくことにやる気を表していました。
就労ビザについて——就労ビザのためお祈りいただきありがとうございます。4月に延長申請し、5月には承認されていたビザを受け取りにルサカに行きました。できているものをただ取りに行くだけなのですが、10時半頃入国審査局についたときにはすでに長蛇の列ができていました。並んで待ちましたが、一向に列が進まず、13時頃になり、昼休憩に入るということで整理番号を渡され、午後に戻ってくるようにと言われました。私は午後一番の番号札でした。14時になり整理番号を持って中にはいりましたが、そこには午前中からの人がまだ並んでおり、またそこで並んで待ちました。列が進んでいない様子もなく、今日は無理かと諦めかけた頃に列が進み始め、最終的に約5時間かかりましたが、感謝なことに就労ビザを受け取ることができました。■

貴いお祈りの手が挙げられ続けてまいりましたKCC本部と青年教育館、並びに宣教師館が完成しました。

6月末に引越して新会堂にて最初の礼拝が6月30日の聖日に献げられました。私の不在の中で引越越し、これまでも何度かそのような中を通過しながら今日まで働きを継続させて頂いてきましたので、主がこの度も無事に全てを守り、全荷物を新しい建物に移し終えることができますよう祈っておりましてのでホッとしながら背後の祈り手の皆様にも早速ご報告させて頂くべく筆を進めております。まだ水の供給が弱いながら電気はきているということでしたが、ヴァンディ師は新しい場所での生活設定に超多忙とのこと、また案じた通り、まだインターネットが通じていない問題のため、連絡を取ることが難しい状況です。速やかに生活環境が整えられますようお祈り頂ければ感謝です。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2019年7月3日



また7月にはグレッグ宣教師が所用でフィリピンに行かれるので祈って欲しいとのお願いがありました。それとともに昨晩6月最後の聖日の夜、WGMの宣教師として派遣されておりましたカンボジア人、タイタス師ご夫妻とご一家が最初の2年のご用を終えて米国に報告帰国されました。今度いつカンボジアに帰ってこられるのかはお聞きしておりませんが、彼らの気持ちは再びカンボジアでの働きを進めたいとお気持ちです。

カンボジア宣教に必要なお二人の今後の方向づけのため、お祈り頂けましたら感謝です。働きが手薄になる暫くの間、サタンの攻撃から全教会と信徒方が守られるよう(8月にはマーク宣教師が帰ってこられる予定ですが)、働きを進めてくださるようお祈りください。ピリピ二・12。(写真はタイタス宣教師御一家と宣教師たち)



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2019年7月8日

5つのウェスレアン聖書大学の職員が4年に一度集まって開催される全国職員研修会に常喜が出席しました。2泊3日で開かれたこの研修会には合計25名が出席し、各種セミナーを通して学び、またお互いの現状を知り、励まし合うこととなりました。セミナーでは、二十一世紀の学生たちに教えるということについての、現代のフィリピン学生たちの傾向性などを紹介しながら心理学者のサム・アキノ先生からお話を伺いました。

聖書大学のプロモーションのために東マニラ教区にあるタイタス・ウェスレアン教会を訪問し、奉仕しました。タイタイ教会は宣教師がやっと通れる程の路地にあるため、緊張しながら、ゆっくりと運転し、たどり着きました。子どもも含め30名ほどの方々が集っていました。ちょうどその日は、父の日でもあったので常喜も含めて普段教会に集っているお父さん



たちが前に出て、レイモンド牧師に祈って頂きました。レイモンド牧師は、常喜の教え子であり、このタイタイ教会には先月赴任したばかりでした。前任地は大きな教会で副牧師として働いていたため、まだ慣れない環境で、色々と不安や課題があり、礼拝後には彼からそうした話を伺い、お祈りしました。困難、課題を乗り越えながら、彼が神に委ねられた教会を愛し、仕えていくことができるようにお祈りください。

月末にはマニラ日本語キリスト教会で奉仕をしました。今回は、ナザレン・セミナーで学ぶ後藤献五郎さんと稲葉先生御一家を宣教車でお連れし出席することができました。多数の新来会者のせいか、いつもよりも出席者がたくさんあるなか、常喜は第一列王記一七章から説教をしました。礼拝後には、聖書を改めて読み直したいと話してくださった未信者の方からの反応に御名を崇めました。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2019年7月6日

「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていくのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」第二コリント四章7節

主の御名を心より賛美します。いつも背後にありまして尊いお祈りと温かいご支援を心より感謝申し上げます。

こちら台湾では、梅雨明けしたものの、例年になく梅雨前線の南下と停滞減少に熱帯低気圧の雨雲が繋がり、4、5日おきに局地的な大雨が降り注ぐ不安定な天候が続いています。突然の大雨に、バイクの椅子の下から雨具のカップを取り出し、あつという間に着替える光景はこの時期の風物詩です。そのような中、雨の晴れ間となったペンテコステの日曜日(6月9日)には、新しい場所で会堂移転記念礼拝を守ることが許されました。神さまの恵みとあわれみ、最後の多くのお祈りに支えられ、教

会の愛兄弟方が集会毎に、荷物の搬出・搬入のご奉仕を担って下さり、ここまでたどり着くことができました。当日は、長い間、来ていなかった方々や台南より川路姉がお祝いに駆けつけてくださいました。特に、川路姉が台南聖教会・日本語礼拝を代表してのお祝いの挨拶と共に、集会和働きの様子をPPTのスライドを交えながら報告、証ししてください、礼拝後の感謝愛餐の時に終りまで、愛姉を中心として交わりの輪が広がっていました。特に、台中教会のメンバーにとって興味深かったのは、信徒として教会の働きを担う際の課題や取り組みについて、愛姉が教会献身に導かれたきっかけとその後の歩みについて、教会内の神学校でどのような学びと訓練があったのか、どのように家族の理解と協力を得ているかなど多岐に渡り、自分たちができる範囲の奉仕を忠実に果たすことが大切で、それが主イエス様に、教会に仕えることになるのだという信仰生活の基本に気づき、大きな領きが与えられました。

次週の台南日本語礼拝には、こんどは南部への出張の帰途、台中教会の葉添麟兄が立ち寄り、先週の感謝と共に、台中教会の歩みを報告、証詞して下さり、台中教会と台南礼拝との生きた証人の相互交流、お互いに理解を深め、祈り合う、恵みの機会となりました。教会が新しい場所に移り、少しずつ移転したことが周囲に浸透し

てきたようです。前の場所とそれほど離れていないため、普段使うコンビニやガソリンスタンドなどが同じこともあり、近隣の方々が今まで以上に懐かしそうに声を掛け、現況を尋ねてください、その度に、新しい教会を一度見に来て下さいとのこれまでにない働きかけの機会が生まれました。また、このオフィスビルには、旅行会社や貿易会社など、日本との通商が多くある会社が多くあり、自分たちのビルの中に教会が、しかも日本語の教会が引越してきたということが興味と関心の的となっているようです。いろいろなことが用いられ、新しい方々が教会に加えられますよう、祈りつつの歩みです。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2019年7月8日

6月3日出国、アブダビ経由でナイロビ到着。浄水器他荷物の受け入れ、パスポートの有効期限等課題はありましたが無事出国。乗り継ぎも順調。入国審査、荷物の

受け取りと検査もスムーズで課税も無く、着陸から一時間もしないうちに路上に出て驚きました。

携帯電話の手続きも今回は大変順調。翌日は毎年不定期な国民祝祭日のイード（イスラム教の断食月明けのお祝い）。本来その日が入国期限だったのを、大事を取って1日繰り上げたため、当日の厳しい検問や交通渋滞等から守られたと分かり、感謝。

まず日本大使館で有効期限が残り3か月のパスポートを更新。本当は有効期限が6か月以上ないと入国できないのですが、問題は3年分の就労ビザがあと1年半くらいある状態でそのパスポートに載っていること。新しいパスポートに就労ビザの転記がないとそこちうの方が入国の際に問題になります。ナイロビ在住の方にアドバイスを頂き、就労ビザの記載があることを優先しました。しかし入国審査を終了するまで落ち着けず、ずっと祈っておりました。が、拍子抜けするほどスムーズに入国でき感謝でした。パスポートの申請・発行も、遠隔地にいることを考慮してください、最短で終了。続いて移民局で、新しいパスポートへの就労ビザの転記と、外国人登録証の申請をしました。これも大変順調にいききました。都心部の移動が守られたことも感謝でした。

■会計報告6月分

宣教献金 一、一四九、四三三円
月平均 一、九九六、九四三円

お祈りの課題

ザンビア（根廻）

◆就労ビザが受け取れた感謝
◆ジエンボでの生活が守られるように

◆主を証していけるように

ザンビア（富澤）

◆訪問団受け入れ準備のため
◆クリニックが支えられ主の栄光が現せられるように

◆健康が支えられるように

カンボジア（葛田緑乃）

◆新しい場所に展開するKCCの教会建設に御霊の豊かな御働きが進められるように

◆新生活が開始したヴァンディ師御一家の生活状況に水、電気、パソコン機器が有効になり、働きに支障なく整えられるように

◆葛田の健康が強められ、霊肉ともに支えられるように

香港（鹿島）

◆9月からの相応しい礼拝場所が九龍サイドで備えられるように
◆中国返還後22年を迎えました。50年間の香港の一国二制度が守られるように

◆広州への出入りと、聖研祈禱会が祝されるように

ケニア（葛田就子）

◆再赴任でき諸手続きも守られた感謝
◆これから3か月間のスワヒリ語の学びが祝されるように

◆テヌウェク病院の働き人（ルカ一〇・二）特に麻酔科と検査室、整形外科医の必要が満たされるように

フィリピン（豊田）

◆新学期が始まる学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ訓練に励むことができるように

◆月一度のマニラ日本語リスト教会での働きの祝福のため

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため

台湾（平瀬）

◆初夏を迎え、連日の30度越えの高温超多湿です。出入りと健康が支えられますように

◆台中教会と台南日本語礼拝に新しい方々、継続して来会する方々が与えられるように

◆現在、求道中の慕道友の中から救われる方が起こされるように

◆子どもたちの学びと将来の導きのために。（明里は現地高校を卒業しました。勝大は中3受験生です。）

◆極東アジアの複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定を見えるように。来年1月総統選挙

グローバルユースミニストリー

（葛田康毅・由理）

◆GYMと設立しようとしている国際教会のために暫定的に集会場が確保できた感謝
◆8月末に予定されている海外からの青少年のためのキャンプが祝されるように

◆教会建設の準備のためにより深い一致が与えられ、GYMの働きの推進に繋がるように

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

福音ユダを神学する

院長 ● 河村 從彦

「すくしなさい」

(ヨハネ二一・27)

自分の福音理解が最も問われるのは、弱さ・失敗をどのように考えるか、その中でも特にイスカリオテ・ユダをどう見るかでしょう。

ヨハネ二一章がなければ、自分はこの世界にとどまっていなかったかもしれない。しかし自分をペテロに重ねること、「憐れみを受けた」自称勝ち組になりました。ところで、自分をペテロに重ねる心理はユダを裁く心理の裏返しに過ぎず、ユダを裁く罪がイエスさまを十字架に追いやっていることには気づいていませんでした。

違和感もありました。ユダが裏切らなければ十字架はなかったとすれば、ユダの人生は神の道具にすぎないのか。それならば神はあまりに理不尽ではないのか。

あるとき、思い違いに気づきました。自分はユダと変わらな

長いことペテロと変わらなと思っていました。自分をユダに重ねて受難週の記事を読んでみると合点がきました。「情けない者がやっていただく以外にない」恵みの世界が見える気がしました。

自分はユダと変わらなという納得に立つと、奉仕者として次の問いが来ます。自分はユダに寄り

添えるだろうか。そうでなければ、どこか偽りな気がします。

牧会臨床の世界で再考を促されているのが自死の問題です。個々の事例を「自死Ⅱ罪」という構図で片づけてよいのか。この問題についてキリスト教界は必ずしも寛容ではありませんでした。イエスさまの恵みはどこまで届くのか。制限を設けているのは人間ではないのか。避けるべきことですが、ユダの生きた世界は究極の当事者性、つまり本人しかわからない領域なのです。人間にできることは、当事者に寄り添えるだけです。自分はユダに寄り添えるだろうか。この問いは、自分の福音理解と奉仕観がイエスさまのものを測る尺度です。イエスさまはユダを愛し抜かれた、イエスさまはとことんユダに寄り添われた、この事実はどこまでも残ります。



ベテルハウス玄関のプレートです

神学エッセー

福音主義キリスト教の始まり

②福音派の特徴とは何か



藤本 満

前回、福音派は国教会を離れた人々によって始まったことを記しました。国教会を離れたということは、ドイツや北欧のルター派、スイス・オランダ・スコットランドの改革派、英国の聖公会を離れたということ。教派的なルーツはあったとしても、教派の制度的な縛りや信条の厳格な規定から自由になりました。

この福音派は、様々なルーツから派生していますが、全体として一つのくくりに入れることができないような特徴を持っていました。①教派神学以上に聖書を重んじる傾向（これが聖書主義や後の聖書信仰につながります）、②個人の回心を重んじ、十字架の贖罪の強調、③愛の実践、④伝道です。

どれをとっても興味深いのですが、③を今回は考えてみましょう。ウェスレーは愛の実践をメソジストに求め、孤児院や貧窮院の設立に務めます。それだけでなく、奴隷制反対運動の後ろ盾となります。福音派は、国教会、すなわち「政

府」との結びつきを断ったわけですから、基本的に政府の政策や社会の現状の中で、福音にそぐわないことに対して自由に反対意見を述べる立場にいました。

反対の、国教会を考えればわかります。ドイツでは、第一次世界大戦と、その後のヒトラー政権の樹立にあたって、教会はその後ろ盾をしていました。国教会にあっては、このように国の傾向に迎合せざるを得なかったわけです。

これに対して、福音派は福音に基づいて自由にも言う立場にあります。ところが、アメリカの福音派だけでは、少々勝手が違います。自分たちは国教会を出て、新しく教会をつたという意識だけでなく、新しく「国家・社会を作った」という意識を強く持っていました。

するとどうなりますでしょうか。福音派と呼ばれるグループが妙に政治的な問題に介入してくるようになります。共和党の保守的政権（ブッシュやトランプ）の後ろ盾にいつも「福音派」という言葉がニュースに流れます。それは、福音派の本質から考えれば、異常事態です。福音派はそもそも、福音に基づいて国の政策や社会問題に関しても、もっぱら弱者の側に立ち、愛の実践として行動することがそのモットーであったはずなのに！しかし、私たちこそがアメリカを作ったという誤った意識に固まっていたら、極右的行動の後ろ盾となってしまうのでしょうか。

◆前期の学びの中で

イエスさまの視点で

正規コース 石川 順

「いつもあなたがたとともにいます。」(マタイ二八・20)

入学し、学院で前期、牧師として大切なことは何かを学んでいます。

その一つは、人との関わり方です。会話をするときに、相手の方とただお話しするだけでなく、その方はお話の中でどのようなことを考えて何を感じているのだろうかという視点。また、その時自分は相手からどう思われているのだろうかという視点で会話すること。今まではこのようなことを意識して人とお話しすることはあまりなかったのですが、実際にやってみると意外と難しい。自分の発した言葉がどのように相手に受け取られたのか。また、相手が発言した時何故そのように(どのような心情で)発言されたかなど、話している内容以外にその人の心を知りながらお話しする。会話だけでなく、挨拶の一言や、奉仕をしている時にも同じような視点で見えます。声の大きさ、相手との(物理的な)距離、自分の態度などはどうだろうか。

意識してやってみると、自分のしたこと(発言したこと)によって相手を傷つけていないだろうかという発想が出てきます。もしかしたら知らずに相手を傷つける言動を自分ではしているかもしれないということに気がつきます。もし、そのような気づきが与えられたのなら、次はこうしてみようと考えてやってみる。そして、相手を傷つけるリスクを減らしていきます。これらは、「イエス様ならどうされる(思われる)か」という視点だと思えます。イエス様視点で人と関わる、こういう歩みをすることは楽しいです。それは、主がともに歩んでくださって、私自身を日々新たにしてくださっていることを感じるからです。

良い学びをさせて頂いている事に感謝します。

◆前期の学びの中で

学びと礼拝

短期コース 田中利道

「真の礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。」(ヨハネの福音書四章23節)

皆様の尊いお祈りと温かいご支援を心から感謝いたします。早いもので、もう二か月が経ちまし

た。平安のうちに、楽しい学びが出来ましたことを感謝しております。思い描いていた以上に充実した学びをさせていただいております。聖書読解の技術の文脈で読むでは、今まで間違っていて理解していたことが多いのを知って愕然としたこと、今まで、目をそらしていた教会の暗黒時代の迫害が、今の私たちの信仰に近い人たちが異端として殉教していたのを知って、この人たちの犠牲が今日の私たちの信仰を守ってくれたのだと知り感激したりしております。

また、聖書の各書を一気に読む訓練は最初、大変でしたが、今は本のためにすることが分かりました。福音書や、手紙を、一気に時間を掛けて読みます。すると、大切な何かが見つかるのですが、それが重要なキーワードであることが分かってきて、面白くなりま



食堂奉仕の赤石姉 ありがとうございます！

した。

また、学びの間に毎日チャペルの礼拝があります。学びと礼拝がサンドイッチのようになっていて神様の臨在の中に学び礼拝する事が私の緑の牧場になりました。

またイムマヌエル中目黒教会を中心に、色々な教会の礼拝に、恵によって行かせていただきましたが、どの教会も礼拝をとっても大切にしておられることがよく分かりました。

先生方の牧会的配慮をいただきながら、学ばせていただいております。夏期実習には沖縄の東風平教会に行くことになりました。私の使命を果たせるように願っております。お祈りください。

◆前期の学びの中で

絶えず問われる福音理解

正規コース 峯尾仰生

「いつたいこの方はどなたなのだろうか。」(マルコ四・41)

いつも尊いお祈りとサポートに心より感謝申し上げます。

現在、様々な場所で証やメッセージの機会を与えていただき感謝しております。しかし、正直多くの反省が毎回あります。宙に浮いた表現を使っていたのではないかと、聖書が示す福音の提示がなさ

れていたのか、なぜあの一言を言ったのか、落ち込む時が何度もありました。足りなかった部分はもう神様に働いていただくしかないという良い意味での開き直りがその都度求められました。この様々な感情の変化の中でいつも立ち戻るのが私の福音理解でした。自分がどのように聖書に向き合っているのか、神様をどのような方として捉えているのか、そして神様からの恵みに対して自分勝手に過小評価し、限りある努力を神様に条件提示していかないか。あらゆる角度から私の福音理解が問われました。

自分でも意識できない心の性質は神様に委ねるしかないという力みがない信仰。その信仰に基づいて、自分がいる場所で精一杯、みことばと人に向き合い、今を生きる姿勢。このバランスの根底にある福音理解を絶えず問い続け、深めていきたいと思っています。

心の性質の面では無力であるという自覚から、神様がそこに働いてくださることへの気づきを通して、絶えず注がれている恵みを知る。この恵みの循環に深められていきたいと願っております。

複雑な現実の中で、みことばに生かされている者として、実体的ない言葉ではなく、逃げのない正直な言葉を用いることができますように、そしてみことばを文脈から正確に捉え、主と共に福音理解を深めていきますように、お祈りに覚えていただけますと感謝です。

私の神学生時代 すべては神学院から 18期生 ● 松村伊作



1 見る

私が神学院に入学したのは、昭和四一年のことでした。その前年教団は創立二〇周年を祝い、全県攻略をほぼ達成し、燃えていました。

二年生の時に、ピリィグラハム大会が開催され、葛田初代院長の許、奇跡的と言える勝利を拝しました。

また神学院は藤が丘に土地を与えられ、建築の完成を見ました。

国外宣教も大きく前進し、インドと共に、ジャマイカに手を広げました。これらは全て信仰によっていた事実を目の辺りにしました。

2 聞く

神学院のチャペルや家拝で、優れた器方の説教を日々聞く恵みに与りました。葛田院長、朝比奈寛先生、岩城幸策先生、葛田真実先生、竿代忠一先生などの説教を聞きながら、自らの説教の原型を作った頂いたのも、この時期でした。自己流にならないように、神によって路線を引いて頂いたのは、大きな恵みでした。

3 学ぶ

神学院は学所ですが、まず祈りを教えられました。日々の密室と共に、早天、夜の寮部祈り会、月曜日夜の院長が指導する半徹夜の合同祈り会を通して、祈りの世界に目を開かれました。当時男子寮には一人になれる場所が二室しかなく、競争してそこで祈り込みました。さらに聖書が学びの中心でした。聖書科目が多く、何よりも聖書に強くなれと教えられました。河村襄先生の授業で分解の宿題が出、各章を緻密に観察する習慣をつけて頂きました。

また、ウエスレーの説教、院長のメソジズムを通して、奉仕の中心がここにある事を確信しました。

4 伝える

聖日の夜には、毎週ミッションで関東の諸教会に遣わされ、伝道のお手伝いをしました。当時は、道で人を誘うことも容易でしたが、内気な私も鍛えて頂き、魂を捉えることができるようになりました。

夏の実習も忘れることができました。一年生は佐賀の開拓に派遣され、蚊に悩まされながら救霊に励みました。二年生は横浜教会に一人で遣わされ、看板を書き、説教の準備に当たりました。三年生は、大橋先生の病氣代行で浦和教会で奉仕し、多くの恵みを受けました。

卒業後は、静岡・甲府・北九州で五十年間奉仕を許されましたが、基礎は全て神学院での経験に基づいています。「主は私の羊飼い」であり続けて下さいました。

同窓生の近況

44期生

取手シオン教会 ● 吉川あゆみ



聖宣神学院を卒業して茨城県取手市に遣わされ、今年で24年目を迎えております。主の恵みとあわれみは尽きず、折々に必要な助けをいただいております。取手教会は、中古のアパートの一階部分を改築して礼拝堂にしましたので、建物の老化問題を抱えています。そして、何よりこれからの宣教への希望を持って新会堂建築を祈り始めています。主の最善がなされ、また救いの恵みに与る方が起こされますよう、お祈りいただければ幸いです。月一回行っている子ども集会(GOGOキッズ)も定着しつつ近隣の子どもたちが喜んで出席してくれています。

個人的には、私の父が今年5月11日にあつという間に主のみもとに召され、様々な事柄には期限と時があることを深く思わされました。主に導かれて今があることを感謝しつつ、これからも決して変わることはない真実なイエスさまご自身を信頼して参りたいと思います。(ヨハネ二二章22節) 健康的には、主によってリウマチが癒され感謝しております。

神学院スタッフ…恵みの想起

聖霊の実

女子寮監 河村みち

神学院は、「聖霊に満たされる」ということが奉仕の条件として、代々言われておりました。

私は卒業時、聖霊に満たされるという使徒の働き一章8節が思い浮かび、「能力」と結びついて考えていました。けれども現場に出てみて、奉仕で大切なのはガラテヤ五章22、23節の「人格に影響を与える聖霊の働き」であり、働きの内側に日々なされていく御業の方が現実的で大切なのではないかと今は思っています。

神さまは、日々自分の本当の姿と向き合う中で、御霊の実として、わずかずつですが変貌を与え続けてくださり、魂と向き合うご奉仕の生きがいと学びへのモチベーションを絶えず与えていてくださっています。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。6月の会計報告をさせていただきます。

6月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥802,425
教会団体による「神学院献金」
¥436,350
合計 ¥1,238,775
その他の献金(一時・特別)
¥411,765

・振替：00230-0-10138



学苑だより

●70周年感謝献金目録を贈呈

B・T・C後援会 中山朝雄

昨年6月より実施したB・T・C創立70周年感謝献金に全国の皆様が一千万円を上回る献金をお寄せくださいました。心より感謝いたします。7月2日に聖宣神学院へ献金させていただきました。河村院長からピリィ四章18節の御言葉と共に皆様方への心からの謝辞がありました。



公報

本部通達

「神は国々を統べ治めておられる。神はその聖なる王座に着いておられる。」(詩篇四七・8)

各地域の夏期聖会、またYS・BTC、とにキャン、各教会の諸行事に天の恵みをお祈り致します。

■本部

▽8月12日(月)～16日(金)の週は夏期休業期間となり、本部や出版事業部関係の業務はお休みとなりますのでご了承ください。

■国内教会局

〈教区会〉14日(水)～15日(木) 北海道教会会

〈会議〉9月2日(月)～3日(火) 全国教区主事会議(BTC)

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

《各地域聖会開催情報8・9月》

◇東関東聖会

8月5日(月)～6日(火)

講師・岩上祝仁師

会場・成田ビューホテル

◇四国聖会

8月6日(火)～8日(木)

講師・葛田崇志師

会場・セントラルホテル鴨島

◇ポプラ聖会(北海道地区)

8月15日(木) 講師・川嶋直行師

会場・札幌教会

◇九州聖会

8月20日(火)～22日(木)

講師・阪下謙師、小川宣嗣師、吉村和記師

会場・阿蘇の司ビラパークホテル

◇関西聖会

9月15日(日)～16日(月)

講師・小川宣嗣師

会場・ピアザ淡海

9月14日(土)～15日(日)

講師・荻野倍弘師(シオン・キリスト教団沼津キリスト教会)

会場・小牧勤労センター

◇林間聖会 9月23日(月)

講師・野田禎師 会場・OCC

◇中国聖会 9月23日(月)

(松江) 松江教会

講師・藤本満師

(山口) 山口教会

講師・内山勝師

◇北越聖会 9月23日(月)

(新潟) 会場・長岡教会

講師・佐藤信行師

◇世界宣教局

▽ザンビア宣教訪問団は8月27日に出発し9月5日に帰国です。団長の岩上頼子師(神戸教会)と9人のメンバー(内6名が青年)のために祈りましょう。

▽根廻恵子宣教師(ザンビア)の巡回報告は2019年11月から2020年6月2週までは2020年5月から8月初めです。宣教師の巡回申し込みは葛田敬子師(神栖教会)までお願いします。

▽葛田康毅、由理宣教師(グローバル・ユース・ミニストリー)は

教会のための物件が決まり、10月から働きを開始する予定です。

〈IWF関連〉

▽フィリピン・ウェスレアン教会の総理ジョニー・ギリアモ師と世界宣教局長のシルバー・ルマハン師が案内役の豊田恭子宣教師とともに来日され、本部で内山勝代表たちと懇談されました。また、中目黒教会の祈禱会で幸いなお証しをしていただき、教会員との良き交わりの時を持ちました。

▽ウェスレアンのアンドレア宣教師は、舌癌の再発治療のためアメリカに一時帰国し、9月上旬以降に手術されます。最善の処置がなされるように祈りましょう。

■教育部

〈青少年部・青年課〉

◇青年課運営委員会(4名の信徒青年委員を迎えての初会合)

日程・8月3日(土)

◇YS・BTC(詳細は下記)

日程・8月11日(日)～13日(火)

会場・BTC

講師・大兼久芳規師

〈中高生課〉

◇第12回とにキャン2019

日程・8月13日(火)～16日(金)

会場・聖山高原チャペル

講師・安藤理恵子師(玉川聖学院長)

テーマ「Get Over ～翼を使え!!」

◇ユースミッション

日程・8月24日(土)～25日(日)

奉仕先Ⅱ小松教会

引率Ⅱ葛田聡毅師

現地集合&解散、交通費滞在費補助可(8月15日募集締切)

◇九州地区青年大会

日程・9月15日(日)～16日(月)

会場・国立夜須高原青少年自然の家

講師・松尾献師(KG九州地区主事)

テーマ「GU、キリストにある自由を着こなそう」

◇聖宣神学院

▽夏期実習任地(8月5日(月)～9月29日(日))の8週間。カッコ内は任地。前後期共通。順不同

峯尾仰生(大宮/狭山)

石川順(東京FM)

田中利通(東風平)

▽信徒土曜講座の申し込みは今からでも可能です。

●キリスト教って何?(河村從彦先生) 7月20日開講・4回コース

●教会学校について考える(岩上祝仁先生、内山勝先生、戸塚雅昭先生) 10月5日開講・4回コース

▽神学院祈り会 8月6日(火)午後6時です。

▽YS・BTC 8月11日(日)夜・13日(火)昼。講師は大兼久芳規先生。BTCを会場にした夏の青年大会です。「とにキャン」に参加する方のために聖山行きの便を用意します。

▽秋の入学審査は9月2日(月)、願書提出期限は8月19日(月)です。お間違いないように願書を提出してください。

▽オープン・キャンパス 10月18日(金)午後から19日(土)昼まで。案内チラシは間もなく送付。

▽ホテルハウスについての問い合わせ、申込は学務課・馬場姉まで。

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

9月13日に101歳で召天され、15日に長岡教会で告別式が行われました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▼「祈りのネットワークの訂正」

一木訓治師、茂子師の電話番号誤077(572)・7766

正077(575)・56608

▼藤本栄造師・幸子師の住所変更

216-0003川崎市宮前区有馬8

・28・27ケアホスピス 覧沼

▼渡辺芳子師の住所について追加

737-0045広島県呉市本通4・3

・21 呉ベタニアホーム707号室

教報PDFパスワード2305

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)

郵便振替 001107・133609

▽ホテルハウスご利用の方は、静かな神学教育環境確保のため、以下にご協力ください。

(1)キャンパス内は通行できません。商大側のホテルハウス門からお入りください。

(2)駐車はウェスレーチャペル前、本館前の駐車場ではなく、ホテルハウスの駐車場をご利用ください。20台駐車可です。

消息報告



▼新潟教会の黒川哲師、多恵師ご夫妻に5月30日、第三子ご次男「謙(ゆずる)」さんが誕生されました。祝福をお祈りいたします。

▼深川教会の伊藤安司師、昌子姉ご夫妻に6月29日、第三子ご三女「憩(いこ)」さんが誕生されました。祝福をお祈りいたします。

▼勝間田嶋子師(引退教師)は7月13日に101歳で召天され、15日に長岡教会で告別式が行われました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。